



題字 井口 文章
再刊 第463号
印刷・発行
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2024

みんなで作る
錦城高校新聞

一面：オーストラリア留学体験レポート！
探究部が探究コーナーを開設
二面：映画「トロロ」試写会に参加
新聞委員会ってこんなところ

異国の地で過ごした最高の3週間

オーストラリア 夏の短期留学レポート



Forest Lake State High school の生徒と錦城生たち (提供：門前先生)

7月28日〜8月18日にかけて、オーストラリア短期留学が行われた。今回は、その様子を実際に参加した編集部員の梶がお届けする。
※掲載が遅れてしまい、申し訳ありません。(梶)

現地校での様々な体験
オーストラリアに滞在する3週間のうち、土日と祝日を除いた12日間は、現地の高校「Forest Lake State High school」に通った。中学1年生から高校3年生までの生徒が在籍していて、主に日本語の授業を選択している生徒と共に授業を受けた。昨年の錦城生との交流が日本語クラスを取っている生徒に好評だったようで、選択授業で日本語を取る生徒が増えたという。学校では、実際にオーストラリアの生徒と英語で会話する授業や、現地の硬貨の種類や動物を英語で学ぶ授業をはじめ、クッキングやダンス、アート、などの日本にはない多彩な授業を受けた。



広々としたキャンパスを訪問

8月9日、錦城生は校外研修として大学訪問とブリスベ市内観光を行った。午前はクイーンズランド大学を訪れた。この大学は、オーストラリアを代表する名門大学で、広大で綺麗なキャンパスを持つ。図書館は学内に6つあり、カフェや博物館もあり環境が非常に充実していた。

「自分だったらと考える」
夏休みから、職員室前に「探究活動部からのお知らせ」と書かれた大きな紙が貼ってある。探究活動部の先生方が作ったコーナーだ。デザインにこだわったというポスターの前で奥嶋陽翔先生は、「共に創るものだから」と、実際に社会で働く大人から、自分の努力で蓄えるだけでなく、他者との関係の中で創り出される知もある、ということを生徒に感じてほしいと語りかけた。生徒は、「このコーナーを見ながら自分分かったらと考えてほしい」と呼びかける。奥嶋先生は、例えば卒業生の講演会の様子や、実際に社会で働く大人から、自分の努力で蓄えるだけでなく、他者との関係の中で創り出される知もある、ということを生徒に感じてほしいと語りかけた。

ラーニングスペースに探究コーナー新設



コーナーでは探究に関する様々な情報が得られる

「自分だったらと考える」
夏休みから、職員室前に「探究活動部からのお知らせ」と書かれた大きな紙が貼ってある。探究活動部の先生方が作ったコーナーだ。デザインにこだわったというポスターの前で奥嶋陽翔先生は、「共に創るものだから」と、実際に社会で働く大人から、自分の努力で蓄えるだけでなく、他者との関係の中で創り出される知もある、ということを生徒に感じてほしいと語りかけた。生徒は、「このコーナーを見ながら自分分かったらと考えてほしい」と呼びかける。奥嶋先生は、例えば卒業生の講演会の様子や、実際に社会で働く大人から、自分の努力で蓄えるだけでなく、他者との関係の中で創り出される知もある、ということを生徒に感じてほしいと語りかけた。

貸し傘はどこへ消えた？

1本も入っていない傘立て (9月24日撮影)
1学期終業式の日には石塚先生からお話があった貸し傘が1本も帰って来ていません。貸し傘は当然ながら借りものです。傘を持って帰ってそのままにしまっているそのあなた、今すぐ返しましょう。(蘭)

名残惜しい別れ
日本に帰る前日、錦城生とそのホストファミリーで farewell picnic をした。食事を各家庭から持ち寄り、バラエティ豊かな食事を楽しみながら談笑する様子が見られた。錦城生は3週間お世話になったホストファミリーへの感謝を込め、日本文化を紹介する出し物をした。折り紙を教えるしたり、日本の観光名所のクイズをしたり茶道のお点前を披露したりしていた。



笑顔で記念撮影

7月28日〜8月1日の5日間、女子バスケットボール部は群馬県の片品村にて夏合宿を行った。合宿では朝にラジオ体操と校歌合唱、午前中にフットワークや走り込みをして午後にディフェンスの練習、夜にシートの練習をする、といったハードな内容を一日中行っていた。練習で大変だったことは「目標タイムになるまで終わらない速攻の練習」だ。しかし、大変な分達成感も強かったと部員の霞萌香さん(2E)は話す。



団結力を強めた5日間 提供：女子バスケットボール部

達成感大の5日間
女子バスケットボール部は群馬県の片品村にて夏合宿を行った。合宿では朝にラジオ体操と校歌合唱、午前中にフットワークや走り込みをして午後にディフェンスの練習、夜にシートの練習をする、といったハードな内容を一日中行っていた。練習で大変だったことは「目標タイムになるまで終わらない速攻の練習」だ。しかし、大変な分達成感も強かったと部員の霞萌香さん(2E)は話す。

新たな発見と体験にあふれた毎日

ホストファミリーと暮らす日々

ホームステイ中の休日は、ホストファミリーと共に過ごした。ある日はサウスバンクに出かけ、マーケットを見て回った。バスソルト、ハンドメイドアクセサリー、洋服など様々な店があり、ウィンドショッピングがとても楽しかった。

ホストマザーたちが芝生の広場で休憩している間、ホストシスターに「come and join us!」と誘われ、一緒に鬼ごっこで遊んだ。8歳と3歳のホストシスターは遊ぶことが大好きで、家でもよく一緒に鬼ごっこやかくれんぼをした。子どもの体力は無尽蔵で、一緒に走り回るのは大変だったが、本当に妹ができたようで嬉しかった。

毎週水曜日の夜にはホストファミリーと一緒に近所のショッピングモールに行った。アイスクリームやヨーグルトの種類が豊富にあるスーパーマーケットではこれらの商品が私の背より高い棚をまるごと埋め尽くしており、見慣れない風景に圧倒された。雑貨屋で気になる商品を店の外から眺めていたら、ホストマザーが「go! go! You can take your time!」と明るく声をかけてくれて、慣れない場所でも安心してショッピングを一杯楽しむことができた。

この3週間、ホストファミリーは優しく私を受け入れてくれて、緊張していた私に話しかけてくれたり、体調をこまめに気遣ってくれた。今回のホームステイでできたホストファミリーとの思い出を、私は一生忘れないだろう。(梶)



広場で遊ぶホストシスターたち

むらさき草
子どものころ、保育園の先生が大好きだった。厳しいおばあちゃん先生から若くて優しい先生まで色々な先生がいて、呼び方こそ「先生」だけれども、どこか「大きな友達」という感覚があったように思う。当時はよく分らなかったこの感覚を、最近になって客観的に見直す機会があった。探究活動の一環として小平の保育園を訪問したときのことだ。O・1歳児クラスの先生が、子どもたちと会話をしながら食事のサポートをしていた。おかいを自分から言うように促したり、なぜか固まってしまっている子を見てくすくす笑ったりしながら、だ。赤ちゃんとしてみんなを助けるのではなく、あくまで子どもたちと対等な目線で関わろうとする姿が、小さなころの「大きな友達」と重なって見えた。ある児童文学作家の書いた、手紙をくれた子どもたち一人ひとりへの返事を讀んで、わけもなく涙が出そうになったこともあった。これもきっと子どもたちに対して真摯に向き合っているように感じたからだと思う。▼アドラー心理学を研究・実践してきた哲学者で、『嫌われる勇気』の著者でもある岸見一郎さんは語る。「アドラー心理学では信頼を重視しています。子どもが大変な状況のときに、素直に親に相談しようと思えるか、普段からそれだけの信頼関係を築けているか。上下関係ではなく、子どもと対等な関係になることが大切なのです」(引用：www.asahi.com/edu/nao-hiroki/1636804)。この考え方は、親子関係に限らず全ての大人と子どもとの関係性に通じるように思う。▼保育園で交流した6歳の女の子が「来年は小学生になるんだ」と嬉しそうに話してくれた。保育園から小学校、中学校と彼女を取り巻く環境が変わっていても、いつまでものびのびと過ごしてほしい。そのために私ができることは、またあの子と会ったときに、対等な存在として一緒に遊ぶことだろう。(瑞)

【お詫言と訂正】
462号裏面にて、記載に誤りがありましたので、訂正しお詫言申し上げます。
(誤)「青春構造」 → (正)「青春構想」
(誤)堀河健一先生 → (正)内藤遼太先生

特別号 舞台は新聞部！ 映画の試写会&インタビュー会参加レポート

現役新聞部員が行ってききました！

7月29日(月)、新聞委員会と有志記者は三輪田学園高等学校で開催された、映画『新米記者トロツ子 私がやらねば誰がやる!』の試写会とインタビュー会に参加した。今号ではその様子をお届けする。

出演者がゲストで登場

新聞部を舞台とした映画の公開に当たり、東京都とその周辺の新聞委員会・部に試写会への参加の声がかかった。錦城新聞委員会編集部も有志を募り、試写会とインタビュー会に参加した。上映された映画『新米記者トロツ子 私がやらねば誰がやる!』は大野大輔さんが脚本を書き、小林啓一さんが監督を務めた。8月9日(金)に公開されている、高校の新聞部を舞台にした痛快な青春エントラータイムだ。



東京、埼玉から集まった新聞部のメンバーと記念撮影！
写真提供：『新米記者トロツ子 私がやらねば誰がやる!』
©2024「新米記者トロツ子 私がやらねば誰がやる!」制作委員会東映ビデオ/SPOTTED PRODUCTIONS
8月9日(金)テアトル新宿・グランドシネマシャイン 池袋

高校生記者からインタビュー

二人の高校時代の話になると、藤吉さんは吹奏楽部の部長を務めていたと明かし、「私自身が静かで、別の高校に多く友達がいなかったのであまりまとめられた感じはなかったです」と高校時代を振り返った。高石さんは通信制の高校に通っていたことでもあり学園生活らしい生活は送っていないかという問いに「映画の中のような厳しくもない先輩との出会いに憧れました」と話した。



ゲストで登場したお2人
写真提供：同上

映画のあらすじ

主人公、所結衣は憧れの正体不明の作家『緑町このは』が在籍しているという名門・櫻葉学園高校に文芸部を目指して入学した。しかし、ひよんなことで入部の機会を逃してしまっただけで、文芸部長の西園寺茉莉から『緑町このは』は文芸部には所属していないと知らされる。『緑町このは』を見つけた結衣は、結衣の入部を認めると言われ、結衣は『緑町このは』を取材したところある新聞部へ潜入することを決める。結衣は取材していくうちに、学園の闇を知り、新聞の報道の力を信じて不正に立ち向かうとするも、数々の試練が立ちちはだかるのだった…。

「本作の撮影で楽しかったこと」について聞かれると、高石さんは「小林監督に『好きにお芝居をしていいよ』と言われたこと、藤吉さんに内緒でアドリブを入れたりしたのが楽しかった」と話した。

編集部では、映画の取材会は初の試みでしたが、とても勉強になりました。本作は池袋や吉祥寺の映画館で上映されていましたが、現在は東京都内での上映は終了しています。青森県、京都府、鹿児島県ではまだ上映されています。記事の発行が遅くなると大変申し訳ございません。興味のある方はぜひ、覗いてみてください。

新聞委員会編集部員、絶賛募集中！！

錦城高校新聞委員会編集部ではここでしか経験できない、貴重な体験ができることをお約束します。例えば今回の試写会への参加や、過去には東京オリンピックのイベント取材、国立博物館の特別公開取材、さらにはウクライナ国立パレエ団の東京公演への取材など、個人ではなかなか行けないようなところに行っています。また、卒業生への取材を通して進路について考えたり、新たな視点を得ることもできます。学校内はもちろん、学校外でも活動しているので、普段知る機会のない分野や昔のこと、立ち入ることのない場所に行ってみることができます。



編集会議の様子

メンバー丸となって紙面の構想を練ります。メンバーは最優秀賞に次ぐ優秀賞を頂いています。こんなに魅力的にもかかわらず、今年は一年生が3人しかいません。再刊を果たした錦城高校新聞の存続の危機にあります。写真が撮れなくても、文章が書けなくても、パソコンが苦手で、センスがなくても、優しい先輩たちがゼロからすべて教えてくれます。文系・理系関係なく、どなたでも大歓迎です！兼部もOKです！一般新聞委員会に入っていない方も全く問題ありません。活動場所は新校舎3階の生徒会室です。夏は冷房、冬は暖房のもとで快適に活動できます。新聞委員会編集部では365日、24時間、新入部員を絶賛大募集中です。新しいことに挑戦してみたい方、錦城新聞に手を差し伸べてくださる方、生徒会室にてお待ちしております！入部を考えていなくても、「活動場所が気になる」や「編集しているところを見たい」というだけでも結構です。ぜひおいでください。編集部一同、あなたをお待ちしています！



実際の取材の様子
相手に質問する人、写真を撮る人に分かれま

君の手でみんなに読まれる新聞を作ってみないか！？

有志記者が感じた新聞部に参加したメンバーにインタビュー



自身の高校時代を振り返る
写真提供：同上

今回、試写会取材会の参加にあたり、一緒に取材に参加してくれる有志を募った。3名の有志が参加してくれたので、それぞれ取材の様子などの感想を聞いた。

「ファンタジー」

高石あかりさんのファンだという清田静さん(1G)。映画は「新聞部が学校の闇を暴く」というとても痛快な青春ストーリーで、所結衣の真実を伝えるために全力で行動する姿がとて印象に残ったと振り返った。「結衣のように一つのことだけに全力になることはすごくすてきなことで改めて思いました」と語る清田さん。インタビューで聞いた高石あかりさんの自分の役に素直に向き合っている姿が、こい感じました。

「選考委員会」

今後様々な取材の機会があれば、class.などを通じて有志記者を募ります。ぜひ声をかけてください！

大会報告

- 野球部 9月8日・15日
- 令和6年度秋季高等学校野球大会ブロック予選
- 対葛飾工科18対0
- 5回コールド勝ち
- 対農大12対1
- 5回コールド勝ち

生徒会動静
9.24~9.27

- ▽選挙管理委員会 9月24日
- ▽代議委員会 9月25日
- ▽球技大会実行委員会本部 9月25日